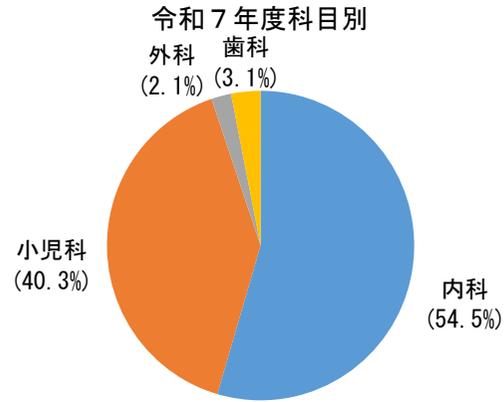


令和7年度小牧市休日急病診療所事業報告について
ア 診療状況について

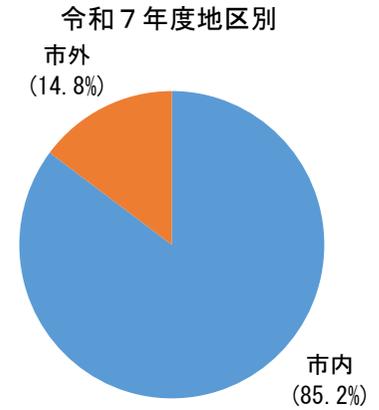
(1) 科目別診療状況

		令和7年度	令和6年度
科目別診療数	内科	1,432人 (54.5%)	2,195人 (57.4%)
	小児科	1,057人 (40.3%)	1,175人 (30.8%)
	外科	55人 (2.1%)	338人 (8.8%)
	歯科	81人 (3.1%)	114人 (3.0%)
合計		2,625人 (100.0%)	3,822人 (100.0%)
診療日数		59日	71日

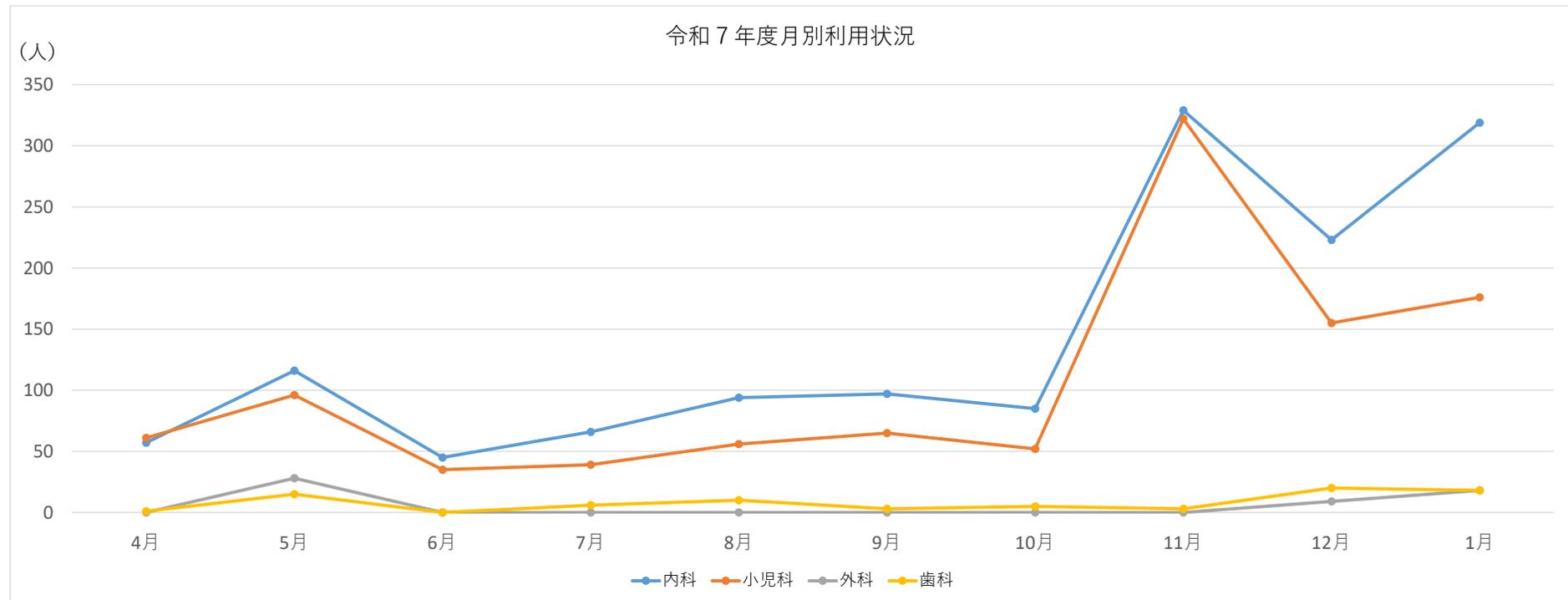
※令和7年度については、令和8年1月末現在
()内は全体比

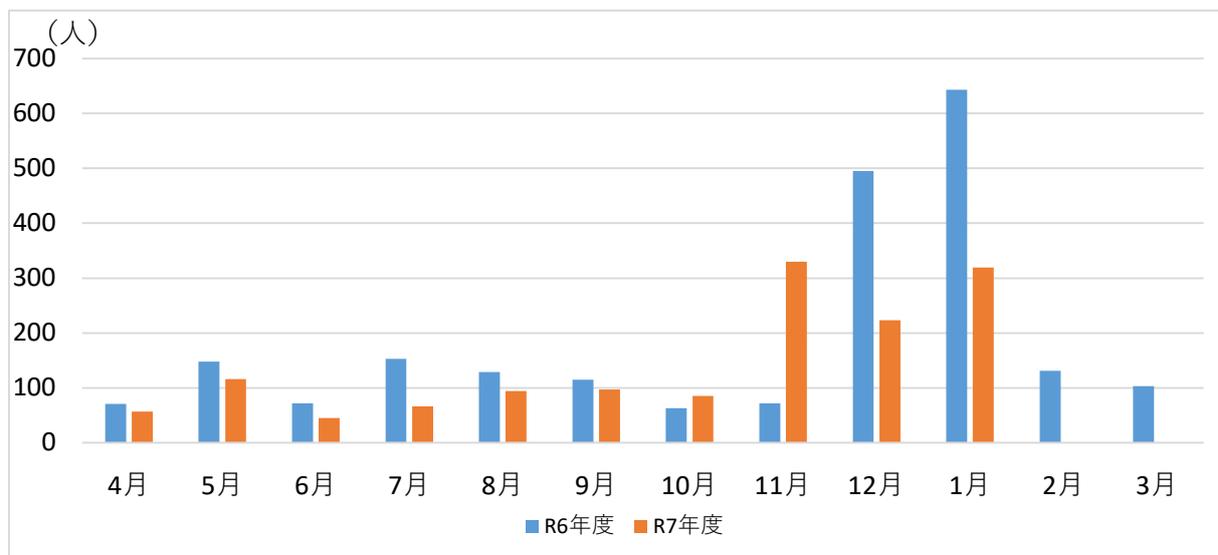


内科、小児科が全体の94.8%を占めています。



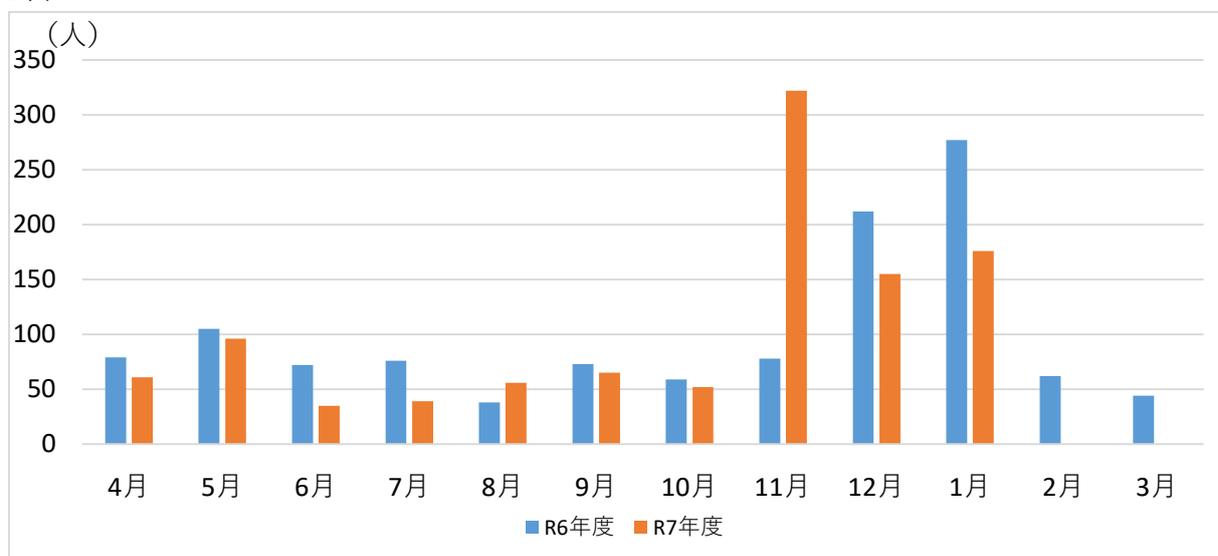
利用者の大半が市内在住者です。



(2) 令和6年度及び令和7年度月別受診者数
内科

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6 年度	受診者数	71	148	72	153	129	115	63	72	495	643	131	103	2,195
	診療日数	5	7	5	5	5	7	5	6	6	8	6	6	71
R7 年度	受診者数	57	116	45	66	94	97	85	330	223	319	0	0	1,432
	診療日数	5	7	5	5	6	6	5	7	5	8	6	6	71
受診者数差 (R6 - R7)		-14	-32	-27	-87	-35	-18	22	258	-272	-324	-131	-103	-763

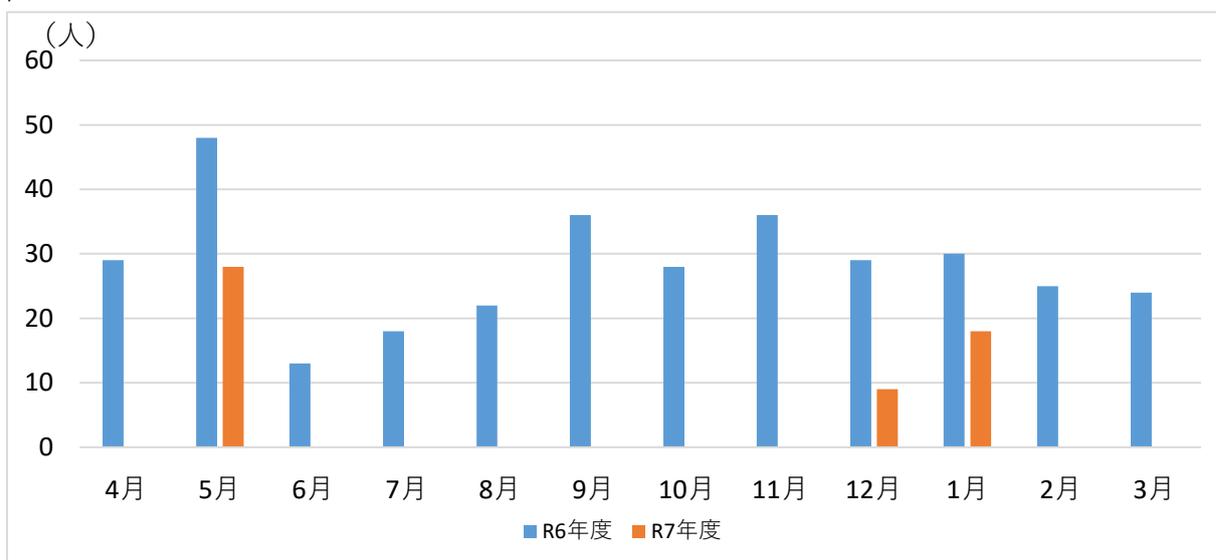
小児科



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6 年度	受診者数	79	105	72	76	38	73	59	78	212	277	62	44	1,175
	診療日数	5	7	5	5	5	7	5	6	6	8	6	6	71
R7 年度	受診者数	61	96	35	39	56	65	52	322	155	176	0	0	1,057
	診療日数	5	7	5	5	6	6	5	7	5	8	6	6	71
受診者数差 (R6 - R7)		-18	-9	-37	-37	18	-8	-7	244	-57	-101	-62	-44	-118

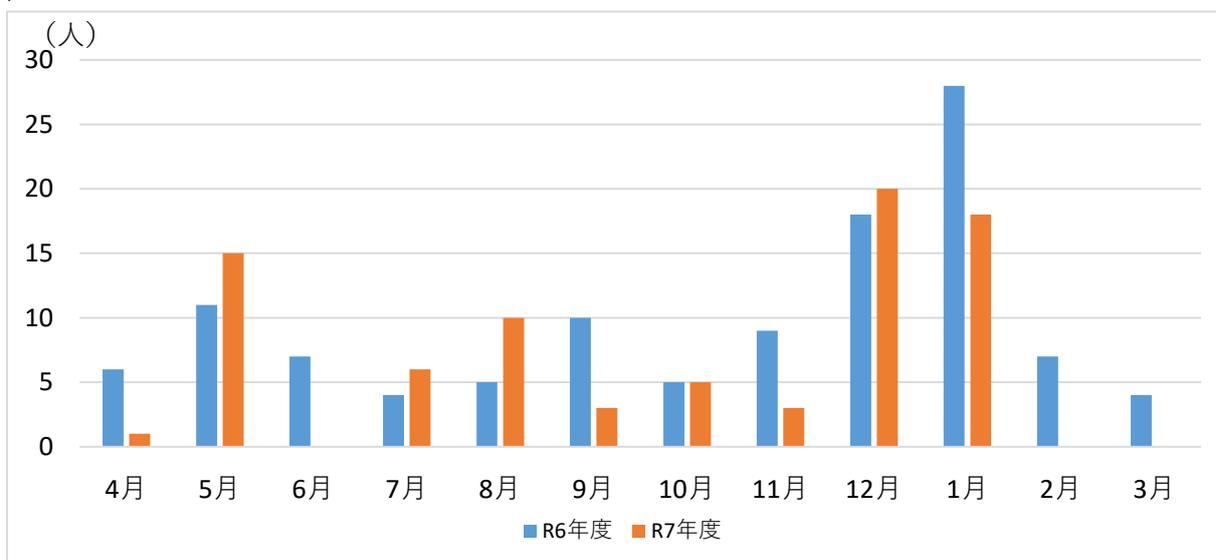
令和6年度と令和7年度の4月～1月までの患者数を比較すると令和7年度受診者数は内科が27.0%、小児科が1.1%の減少となった。月別に見ると、内科は8月に56.86%の減少となったものの10月以降増加しており、特に11月においては400%超の増加となっている。小児科は6月に51.39%の減少となったが、11月においては400%超の増加となっている。

外科



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6年度	受診者数	29	48	13	18	22	36	28	36	29	30	25	24	338
	診療日数	5	7	5	5	5	7	5	6	6	8	6	6	71
R7年度	受診者数	0	28	0	0	0	0	0	0	9	18	0	0	55
	診療日数	0	4	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	9
受診者数差 (R6 - R7)		-29	-20	-13	-18	-22	-36	-28	-36	-20	-12	-25	-24	-283

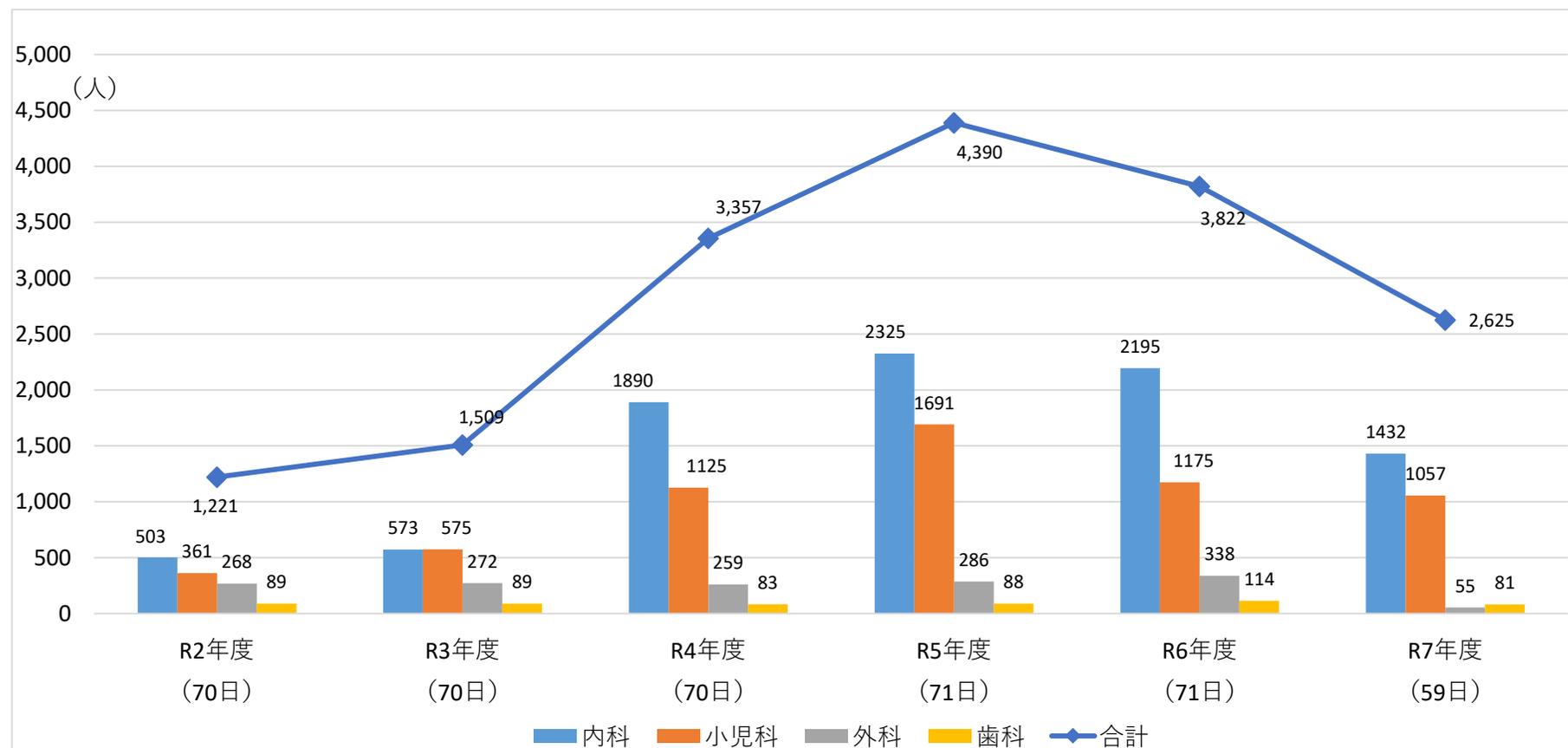
歯科



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6年度	受診者数	6	11	7	4	5	10	5	9	18	28	7	4	114
	診療日数	5	7	5	5	5	7	5	6	6	8	6	6	71
R7年度	受診者数	1	15	0	6	10	3	5	3	20	18	0	0	81
	診療日数	5	7	5	5	6	6	5	7	5	8	6	6	71
受診者数差 (R6 - R7)		-5	4	-7	2	5	-7	0	-6	2	-10	-7	-4	-33

令和6年度と令和7年度の4月～1月までの患者数を比較すると外科は運営状況の変更に伴い、令和7年度受診者数は81.0%の減少となった。歯科については21.4%の減少となった。月別に見ると、外科は令和7年度の診療月である5月、12月、1月全ての月において減少となっている。歯科は例年とあまり変わらないが、6月については月間の患者数が0となっている。

(3) 令和2年度～令和7年度利用者実績（年度ごと）



※令和7年度については、令和8年1月までの実績に基づいて算出

令和2年度から令和5年度にかけては増加傾向であったが、令和6年度には減少へと転じている。令和5年度は前年度比122.47%増と大幅な増加となった。令和5年度は、過去6年間において最も患者数が多い一年となった。令和5年度は年間を通してインフルエンザ等の感染症が流行し、特にインフルエンザにおいては県の定点医療機関比較によると前年度比で500%超の感染者数増加となったことから、内科、小児科の患者数増加が生じたが、令和6年度以降は落ち着いてきたように見受けられる。また、令和7年度については外科診療の縮小もあり、外科診療の患者数は大幅な減少となった。

